

令和元年度 指定管理者年度評価シート

1 公の施設の基本情報

施設名称	千葉市中央いきいきプラザ 千葉市花見川いきいきプラザ 千葉市稲毛いきいきプラザ 千葉市若葉いきいきプラザ 千葉市緑いきいきプラザ 千葉市美浜いきいきプラザ 千葉市蘇我いきいきセンター 千葉市花見川いきいきセンター 千葉市さつきが丘いきいきセンター 千葉市あやめ台いきいきセンター 千葉市大宮いきいきセンター 千葉市都賀いきいきセンター 千葉市越智いきいきセンター 千葉市土気いきいきセンター 千葉市真砂いきいきセンター
条例上の設置目的	<ul style="list-style-type: none"> 千葉市老人福祉センター設置管理条例（昭和59年千葉市条例第20号）第1条で設置する老人福祉センター 千葉市いきいきセンター設置管理条例（平成14年千葉市条例第14号）第1条で設置するいきいきセンター
ビジョン （施設の目的・目指すべき方向性）	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の健康の増進、教養の向上、世代間交流等の機会を提供することにより、高齢者が健康で生きがいのある生活を送ることができる地域社会を構築していく。 高齢化の進展を見据え、できる限り住み慣れた地域で高齢者が自立した生活を送れるよう、「地域包括ケアシステム」の構築・強化を図っていく。
ミッション （施設の社会的使命や役割）	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者が学習意欲を発揮し、地域社会への参画意識を持てるような機会を提供していく。 高齢者の健康づくりや介護予防の場を提供していく。
制度導入により見込まれる効果	市民サービスの向上により、さらに多くの高齢者に施設を利用してもらう
成果指標※	① 施設利用者数 ② 利用者アンケートによる利用者満足度
数値目標※	① 平成27年度利用者数を基準とし、千葉市の高齢者人口の伸び率を乗じた人数以上 ② 満足度60%以上
所管課	保健福祉局高齢障害部高齢福祉課

2 指定管理者の基本情報

指定管理者名	社会福祉法人 千葉市社会福祉協議会（旧：千葉市社会福祉事業団）
構成団体（共同事業者の場合）	
主たる事業所の所在地 （代表団体）	千葉市中央区千葉寺町1208番地2
指定期間	平成28年4月1日～令和3年3月31日（5年）
選定方法	非公募
非公募理由	平成23年度に実施した外郭団体の事務事業の見直しの結果を踏まえ、いきいきプラザ及びいきいきセンターのような安定的なサービス供給が求められる施設の指定管理については、公募によらない方法により、外郭団体に行わせるべきサービスとして整理され、平成24年度に各条例を改正し、公募によらない方法により指定管理を行うこととなった。
管理運営費の財源	指定管理料

3 管理運営の成果・実績

(1) 成果指標に係る数値目標の達成状況

(ア) 施設利用者数

施設名	数値目標 (※1)	R1年度実績	達成率	評価
千葉市中央いきいきプラザ	60,421	56,162	93.0%	C
千葉市花見川いきいきプラザ	77,025	66,230	86.0%	C
千葉市稲毛いきいきプラザ	71,381	67,031	93.9%	C
千葉市若葉いきいきプラザ	90,180	79,526	88.2%	C
千葉市緑いきいきプラザ	60,586	63,617	105.0%	B
千葉市美浜いきいきプラザ	129,714	114,191	88.0%	C
千葉市蘇我いきいきセンター	19,223	21,405	111.4%	B
千葉市花見川いきいきセンター	37,444	30,875	82.5%	D
千葉市さつきが丘いきいきセンター	20,140	18,711	92.9%	C
千葉市あやめ台いきいきセンター	13,617	19,719	144.8%	A
千葉市大宮いきいきセンター	13,323	10,046	75.4%	D
千葉市都賀いきいきセンター	30,504	22,217	72.8%	D
千葉市越智いきいきセンター	11,667	12,222	104.8%	C
千葉市土気いきいきセンター	12,617	19,390	153.7%	A
千葉市真砂いきいきセンター	22,864	18,125	79.3%	D
合計	640,202	619,467	96.8%	C

※1 R2年3月末60歳以上人口303,508人÷27年3月末全市60歳以上人口288,885人=105.06%
各施設27年度実績×105.06%=数値目標

(イ) 利用者アンケートによる満足度

施設名	数値目標 (※2)	R1年度実績	達成率	評価
千葉市中央いきいきプラザ	60%	78.1%	130.2%	A
千葉市花見川いきいきプラザ		77.6%	129.3%	A
千葉市稲毛いきいきプラザ		78.2%	130.3%	A
千葉市若葉いきいきプラザ		80.6%	134.3%	A
千葉市緑いきいきプラザ		79.1%	131.8%	A
千葉市美浜いきいきプラザ		72.0%	120.0%	A
千葉市蘇我いきいきセンター		74.7%	124.5%	A
千葉市花見川いきいきセンター		73.8%	123.0%	A
千葉市さつきが丘いきいきセンター		81.1%	135.2%	A
千葉市あやめ台いきいきセンター		82.2%	137.0%	A
千葉市大宮いきいきセンター		84.5%	140.8%	A
千葉市都賀いきいきセンター		82.7%	137.8%	A
千葉市越智いきいきセンター		83.8%	139.7%	A
千葉市土気いきいきセンター		77.5%	129.2%	A
千葉市真砂いきいきセンター		79.1%	131.8%	A
合計		77.6%	129.3%	A

※2 算定方法は、6(1)アンケート質問6(6)の(満足+ほぼ満足)÷回答者数で算定

【評価の内容】※数値はいずれも原則であり、特殊な事情がある場合は当該事情も含め、総合的に判断する。
A：成果指標が市設定の数値目標の120%以上(ただし、指定管理者設定の目標に達していない場合はBとする。)
B：成果指標が市設定の数値目標の105%以上120%未満(ただし、指定管理者設定の目標に達していない場合はCとする。)
C：成果指標が市設定の数値目標の85%以上105%未満
D：成果指標が市設定の数値目標の60%以上85%未満
E：成果指標が市設定の数値目標の60%未満

4 収支状況

(1) 収支状況

ア 収入

(単位：千円)

費目	R1年度	【参考】 H30年度	計画実績差異・要因分析			
			差異		主な要因	
指定管理料	実績	619,349	606,682	実績－計画	△ 10,722	事業実施内容の精査による。 予算編成時に精査したため。
	計画	630,071	621,838	計画－提案	△ 43,368	
	提案	673,439	675,299			
利用料金収入	実績	0	0	実績－計画	0	
	計画	0	0	計画－提案	0	
	提案	0	0			
その他収入	実績	0	0	実績－計画	0	
	計画	0	0	計画－提案	0	
	提案	0	0			
合計	実績	619,349	606,682	実績－計画	△ 10,722	
	計画	630,071	621,838	計画－提案	△ 43,368	
	提案	673,439	675,299			

イ 支出

(単位：千円)

費目	R1年度	【参考】 H30年度	計画実績差異・要因分析			
			差異		主な要因	
人件費	実績	403,022	411,152	実績－計画	△ 15,533	職員の人事異動による 予算編成時に精査したため。
	計画	418,555	414,847	計画－提案	△ 21,515	
	提案	440,070	437,311			
事業費	実績	93,826	92,397	実績－計画	△ 3,281	以下①のとおり 予算編成時に精査したため。
	計画	97,107	95,372	計画－提案	△ 20,241	
	提案	117,348	117,319			
事務費 (委託料を除く)	実績	42,173	37,247	実績－計画	△ 2,251	以下②のとおり 予算編成時に精査したため。
	計画	44,424	46,322	計画－提案	△ 7,152	
	提案	51,576	51,467			
委託費	実績	50,233	46,728	実績－計画	△ 17	予算編成時に精査したため。
	計画	50,250	48,666	計画－提案	△ 1,808	
	提案	52,058	53,136			
その他事業費	実績	28,559	30,186	実績－計画	8,824	「ファイナンスリース債務の返済支出」を事業費から科目変更したため
	計画	19,735	16,631	計画－提案	7,348	
	提案	12,387	16,066			
本社費・共通費	実績	0	0	実績－計画	0	
	計画	0	0	計画－提案	0	
	提案	0	0			
合計	実績	617,813	617,711	実績－計画	△ 12,258	
	計画	630,071	621,838	計画－提案	△ 43,368	
	提案	673,439	675,299			

※「計画」とは、事業年度ごとの事業計画書で定めた計画額を示す。

「提案」とは、選定時の提案書、事業計画書で指定管理者が提案した見積額を示す。

①事業費の「実績－計画」の差額の主な要因について

- 水道光熱費 △1578千円 → 天候等の影響による
- 教育指導費 △829千円 → ボランティア講師の活用による

②事務費 (委託料を除く) の「実績－計画」の差額の主な要因について

- 福利厚生費 △344千円 → 職員の人事異動による
- 広報費 △369千円 → 社会福祉協議会との合併に伴いホームページの更新を見合わせたことによる
- 保守料 △373千円 → 契約差金による

5 管理運営状況の評価

(1) 管理運営による成果・実績 (成果指標の目標達成状況)

評価項目	市の評価	特記事項
施設利用者数	C	3 (1) ア 達成率96.8%
利用者アンケートによる満足度	A	3 (1) イ 達成率129.3%

【評価の内容】※数値はいずれも原則であり、特殊な事情がある場合は当該事情も含め、総合的に判断する。

A：成果指標が市設定の数値目標の120%以上 (ただし、指定管理者設定の目標に達していない場合はBとする。)

B：成果指標が市設定の数値目標の105%以上120%未満 (ただし、指定管理者設定の目標に達していない場合はCとする。)

C：成果指標が市設定の数値目標の85%以上105%未満

D：成果指標が市設定の数値目標の60%以上85%未満

E：成果指標が市設定の数値目標の60%未満

(2) 市の施設管理経費縮減への寄与

評価項目	市の評価	特記事項
市の指定管理料支出の削減	B	4 (1) イ 実績617,813千円÷提案673,439千円=91.74%

【評価の内容】※数値はいずれも原則であり、特殊な事情がある場合は当該事情も含め、総合的に判断する。

A：選定時の提案額から10%以上の削減

B：選定時の提案額から5%以上10%未満の削減

C：選定時の提案額と同額又は5%未満の削減

(D・E：選定時の提案額を超える支出を行うことはないため、該当なし)

－：対象外 (市の指定管理料支出がない。)

(4) 保健福祉局指定管理者選定評価委員会意見を踏まえた対応

意見の内容	意見対象年度	対応・改善の内容
介護予防事業の効果がわかるような成果指標や数値目標について検討いただきたい。	令和元年度	利用者アンケートに介護認定に関する設問を追加し、施設の利用者と千葉市全体の割合を比較した。資料は19ページのとおり。
収支状況の差異について主要要因欄の記述の方法を検討いただきたい。		3ページのとおり、主要要因の欄外に記述するよう改めた。
60代の方や、男性の新規利用者の獲得に努めていただきたい。		各施設とも近隣施設へのチラシ配布やポスター掲示による広報を行った。老人福祉センターでは男性が興味をひくテーマの講演会を実施した。生きがい活動支援通所事業では、男性の興味を引くような教養講座を継続して開催すると共に、活動の様子をパネル写真で館内に掲示し紹介した。

6 利用者ニーズ・満足度等の把握

(1) 指定管理者が行ったアンケート調査

実施内容及び結果	調査方法	令和元年10月1日～31日の間、来館者全員にアンケート用紙配布。無記名にて記入の上、アンケート箱設置による回収。							
	回答者数	8,615人							
	令和元年度 アンケート結果								
	回答者個人属性								
	居住区 (人)								
	中央区	花見川区	稲毛区	若葉区	緑区	美浜区	市外	無回答	
	1,055	1,506	1,116	1,456	1,210	1,966	61	245	
	性別 (人)								
	男性	女性	無回答						
	2,247	5,841	527						
年代 (人)									
60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳～	無回答			
200	1,094	2,481	2,706	1,451	440	243			
世帯構成 (人)									
ひとり暮らし	60歳以上のみの世帯	その他	無回答						
1,491	3,799	1,900	1,425						
								回答者数合計	8,615
質問1 ご利用いただいている内容は次のうちどれですか。(複数回答可) (人)									
講座	2,794	同好会活動	4,119	ヘルストロン・マッサージ機	339				
講演会	290	体操教室	743	テレビ視聴	38				
機能回復訓練	549	入浴・シャワー	50	新聞・雑誌閲覧	233				
生きがい活動	951	カラオケ	220	その他	355				
世代間交流	59	囲碁・将棋	276	無回答	263				
生活・健康相談	73	トレーニング機器	55						
質問2 ご利用いただいている目的は次のうちどれですか。(複数回答可) (人)									
介護予防	体力増進	心配ごとの相談	友人との交流	生きがいづくり					
1,012	2,837	37	2,180	1,851					
教養・知識の習得	趣味・レクリエーション	入浴	その他	無回答					
1,813	3,126	89	60	314					
質問3 どのくらいの頻度でご利用いただいていますか。									
ほぼ毎日	週4～5日	週2～3日	週1回	月1～2回	年に数回	無回答			
1.1%	3.1%	13.6%	20.6%	58.3%	0.5%	2.7%			
94人	270人	1170人	1766人	5006人	46人	229人			
質問4 いつからをご利用されていますか。									
今年から	1年前から	2年前から	3年前から	4年前から	5年以上前から	無回答			
15.5%	7.0%	9.2%	10.5%	7.9%	43.4%	6.4%			
1334人	601人	787人	900人	682人	3726人	551人			
質問5 主催事業にご参加いただく際、何からお知りになりますか。(複数回答可) (人)									
市政だより	いきいきプラザだより	ホームページ	館内掲示	自治会等の回覧	知人の紹介	その他	無回答		
5,208	1,411	73	977	75	1,678	145	304		
質問6 運営状況について、感想をお聞かせ下さい。									
	満足	ほぼ満足	普通	やや不満	不満	無回答			
(1)設備・備品類の配備状況について	21.2%	45.6%	29.1%	1.2%	0.3%	2.6%			
	1829人	3930人	2508人	101人	23人	224人			
(2)施設の環境(衛生面・安全性)はいかがですか	21.9%	45.5%	29.0%	1.3%	0.1%	2.4%			
	1883人	3916人	2495人	108人	6人	207人			
(3)職員の対応はいかがですか。	36.7%	42.3%	20.7%	0.0%	0.1%	0.2%			
	3111人	3589人	1754人	4人	5人	15人			
(4)施設や事業の案内、お知らせは充分にできていますか。	18.2%	40.3%	36.1%	1.2%	0.1%	4.0%			
	1569人	3476人	3106人	105人	12人	347人			
(5)ご利用いただいていた介護予防になると感じられますか。	30.2%	43.6%	15.2%	1.1%	1.3%	8.6%			
	2604人	3757人	1308人	95人	109人	742人			
(7)全体としてどのように感じますか。	19.8%	53.3%	20.7%	0.4%	0.05%	5.9%			
	1702人	4590人	1779人	36人	4人	504人			
※(4)の回答は、「充分、ほぼ充分、普通、やや不十分、不十分、無回答」から選択									
※(5)の回答は、「そう思う、まあまあそう思う、普通、やや思わない、思わない、無回答」から選択									
※成果指標の利用者アンケートによる満足度は(7)の(満足+ほぼ満足)÷回答者数で算定 77.6%									
(6)介護予防判定を受けていますか。	受けていない	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	無回答
	84.96%	1.88%	0.65%	0.21%	0.05%	0.02%	0.03%	0.00%	12.20%
	7,319人	162人	56人	18人	4人	2人	3人	0人	1,051人

※各施設ごとのアンケート結果については、「参考資料1の1-4」に掲載。

(2) 市・指定管理者に寄せられた主な意見・苦情と対応

市に寄せられた主な意見・苦情	市の対応
緑いきいきプラザにおいて、集会室以外に飲食スペースがないため、集会室が使用中の際にお昼ご飯を食べる場所がなく困っている。	ロビーの一角に椅子やテーブルを設置し、飲食が可能なスペースとした。
指定管理者に寄せられた主な意見・苦情	指定管理者
花見川いきいきセンターにおいて、マッサージチェアから異音が生じ5分程の利用で止まってしまうこともある。	苦情受付後速やかに業者に連絡したところ、修繕が必要であることがわかったため、修繕を行った。
稲毛いきいきプラザにおいて、2月に開催されるフェスティバルが美浜と同日だった。別々の日に開催するよう調整願いたい。	フェスティバルの開催日を美浜いきいきプラザと調整し、別の日程で開催することとした。
若葉いきいきプラザにおいて、男性風呂の洗い場の手すりにタオルを縛り場所取りをしている人がいる。	声掛けや張り紙により対応しているが、現状変化が見られない。掲示物の追加や呼出しボタンを押してもらい職員が現認する等対応していく。
真砂いきいきセンターにおいて、麻雀台が傷んでいるため張り替えて欲しい。	苦情のあった麻雀台を確認したところ、マットの交換が必要であると判断したため、速やかに新しいものを購入し対応した。

7 総括

(1) 指定管理者による自己評価

ア 全体

総括評価	所見
B	<ul style="list-style-type: none"> 全いきいきプラザ・センターで介護予防の強化を図るため、介護予防に関する短期教室、脳トレ、講演会等と様々な事業形態で介護予防の拡充に取り組んだ。 生活相談や健康相談の利用人数の増加対策として各区保健福祉センター、あんしんケアセンター、生活支援コーディネータとの連携を強化した。 健康測定会などの健康に関する事業を開催し、併せて地域での相談業務を積極的に行い、高齢者の健康増進を図るとともに、いきいきプラザ・センターの認知度を向上させた。 広報活動ではいきいきプラザ・センターの魅力伝える手段として機関誌配布、ポスター掲示、折り込み広告等、また、地域へ出向く出張体操や健康イベントにおいて事業案内等の営業活動も行い新規利用者の獲得に繋がった。

イ 施設別

施設名	総括評価	所見
中央いきいきプラザ	B	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防効果を測るため、生きがい活動支援通所事業において体力測定を試行的に実施した（9月と3月に実施する予定だったが、3月は事業中止により9月に1回の実施となったため、測定結果の比較はできなかった）。 地域包括ケアシステム推進に寄与するため、あんしんケアセンターと密に連絡を取り合いながら必要なサービス利用につなげ、地域とのつながりが薄い高齢者が孤立しないよう努めた。 世代間交流事業について、その原点に立ち返り高齢者が多世代との交流で自身の力を発揮することで自己肯定感を向上させるとともに、小学生等に文化の継承が出来るよう、活動中の同好会（茶道・華道）会員にボランティアを依頼した。
花見川いきいきプラザ	B	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者福祉講座の募集案内を、新聞折り込みチラシとして近隣地域に配布した。 高齢者福祉講演会は、当初予定より6回増やし計10回開催した。うち8回はボランティア講師を活用した。 地域交流として、一般市民に広くいきいきプラザを理解していただくことを目的に夏休み映画上映会、福祉バザー、クリスマスコンサートを開催し、パンフレットの配布等により広報活動に努めた。 あんしんケアセンターの出張相談会を設け、介護・福祉・医療等多岐にわたる相談に乗れるよう体制を整えた。 年2回の健康フェスティバルの他に脳年齢、血管年齢測定週間を3回設けより多くの利用者に測定機会を設けた。 看護師・指導員による声掛けを積極的に行ったために健康相談や生活相談の件数が増加した。

<p>稲毛いきいきプラザ</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者講演会においては事業計画を上回る回数を実施し、介護予防や健康づくりに役立つ内容を多く取り入れた。 ・高齢者福祉講座においては、利用者からの要望が多かった「健康麻雀」を新たに開講し沢山の応募を頂いた。 ・同好会では、同好会立ち上げに関する案内を作成し、高齢者福祉講座において早い段階から周知に努め、講座から新たに3つの同好会の成立に繋がった。 ・広報活動においてはチラシ等を、近隣自治会や公民館等へ配布し、地域新聞への折り込みチラシ等も活用し利用者への周知に努め、利用人数の増加を図った。 ・今年度、初めて開催した「粋いき夏まつり」では普段プラザをご利用しない近隣のお子さんやそのご家族等、多くの方に参加して頂き大変好評だった。 ・事業の運営にあたり延べ133人のボランティアの方のご協力を頂いた。 ・屋根付きゲートボール場の利点を活かし、環境を整備したことにより卓球等の個人利用の増加につながった。
<p>若葉いきいきプラザ</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ感染拡大防止のため、利用者数は、3月については事業の休止、縮小となり利用者は前年度比49%となったが、4～2月までは前年度比103%の実績で、3月が通常通り事業展開できれば、前年度実績を上回る見込みだった。(通年では98.91%) ・高齢者講演会、世代間交流については、事業計画を上回る回数を実施した。 ・地域交流の一環として、60歳未満の方が興味を持って参加出来るような講演会を開催した。 ・講演会講師や世代間交流のサポート等、ボランティア活動の機会を提供した。 ・地域の病院、あんしんケアセンター、保健福祉センター連携して、介護予防に関するイベントや講演会を開催した。 ・高齢者の地域生活を包括的に支援する社会資源としての一翼を担うべく、関係機関（保健福祉センター、あんしんケアセンター5か所、地区社会福祉協議会、民生・児童委員、生活支援コーディネーター、老人クラブ連合会、地区の病院の地域連携室）との定例会議に出席し、必要時は個別に連絡を取り協力体制をとった。 ・自主事業として、いきいき体操（月2回）、毎朝のラジオ体操会、出張体操を開催した。 ・看護実習生の受け入れ、高齢者の健康保持や地域生活支援に関する学習機会を提供した。 ・ロビーの椅子やテーブルの数を増やし、歓談できる場や飲食が取れる場所を拡充した。 ・身体障害者用駐車場の適切な利用を促すために、障害者手帳等を確認の上、当プラザ独自の許可証を発行し、必要とされる方に優先的に使用していただけるようにした。 ・先々の予定を見越していただけるように、広報誌のいきいきだよりだけでなく、ホームページを積極的に活用した。また、参加されなかった方が今後関心を持ってもらえるよう実施した事業の報告も広報誌内で毎月行った。 ・台風15号、19号被災後に停電や浴室損壊の方々に、市内外年齢問わず開館時間を延長し浴室を夜間21時まで開放した。(延べ25日間)
<p>緑いきいきプラザ</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア連携会議（誉田あんしんネットワーク会議、見守りネットワーク土気会議）に参加し、あんしんケアセンターや民生委員、地区社会福祉協議会、緑区健康課等と情報交換・情報共有を行い、関係機関との連携と協力体制の強化に努めた。 ・地域包括支援センター、緑区健康課と協働し商業施設での健康測定会、健康フェアなどを開催し、関係機関との連携強化及び地域福祉の推進、施設の広報に努めた。 ・いきいきプラザだよりやチラシを作成し、地域ケア会議やイベントの際に配布し、事業周知と利用促進に努めた。 ・高齢者講演会は、当初の予定より9回多い14回開催した。また、積極的にボランティア講師を活用した。 ・同好会会員募集の展示スペースの拡張、同好会一覧表の窓口での配布、講座受講者に同好会の案内をする等、新規会員獲得のための同好会支援を行った。 ・地域交流として、カラオケ大会や歌声集会等を開催し交流支援と利用促進を図った。 ・プラザフェスティバルでは、ウォークラリーを開催し、生きがい活動利用者が制作したストラップを配布しての生きがい活動の広報と、作品展示をコースに取り入れて同好会の紹介と活動支援を行った。 ・地域のあんしんケアセンターと連携をして自治会集会所やいきいきサロンにて出張健康測定会や出張体操を年4回開催した。 ・近隣施設との連携強化として健康課主催の情報交換会に参加して地域の情報集約や情報共有を行った。また、地域住民主催の認知症SOS声掛け訓練に参加し、関係機関と協力し地域福祉の推進に努めた。

<p>美浜いきいきプラザ</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・美浜いきいきプラザの利用は、70代の方が主体となっている。後期高齢者が増え、徐々に利用者の高齢化が進んでいる。 ・プラザの個人利用が減少している。日常にご利用頂いている方も、年齢と共に顔を見せなくなってきた事が減少傾向に繋がっている。 ・昨年度よりの個人利用の増加という課題の解決に向け、日常に使用して頂きたい健康器具や囲碁将棋のスペースなどの周知としてチラシを作成し、デパートやスーパーなどに配置と地域への配布を行った。 ・前半は、好調な個人利用数も見られたが、夏の暑い時期から減少を迎え台風被害で減少、コロナウイルスの影響で昨年度と比べ大幅のマイナスとなった。 ・もう一つの課題である同好会などの団体利用は、団体数は、解散や新規登録で増減無しの維持状態だが、既存団体の高齢化により会員の減少と災害や感染症の影響でマイナスとなった。 ・今後の課題は、新年度も感染症の影響が続き、事業再開時には安全な健康管理を基に事業の実施と利用をしていただけるように努めることである。また、感染症が落ち着いてから、個人利用の宣伝をしていく様にし、団体利用は、既存の同好会の参加者を増やせる様に宣伝や体験会の実施など団体と相談しながら実施する。また、地域への働きかけとして、関係機関との情報交換・情報共有と連携を図りながら宣伝や地域の介護予防の支援に努めていきたい。 ・他の関係機関と協働した介護予防支援の中で、高齢者が、何かに参加したいという興味を持ち、活動の参加場所が増え、個々の生活範囲が広がられる意欲に繋げられるようにしたい。また、限られた活動範囲の中でしか参加の困難な方もいらっしゃることから、その拠点となる集会所等のスペースへは出張教室・出張健康相談など実施し、高齢者の健康な地域生活を支援していきたい。 ・美浜区の地域包括ケアシステムとしての結びつきの中で、高齢者にとって住みやすい場所となるようにしていきたい。 ・地域創りは、重要な課題なので関係機関と協力し進めていきたい。
<p>蘇我いきいきセンター</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者がいつまでも元気に暮らしていけるよう介護予防に重点を置き事業展開し、概ね計画に沿いながら良好に行えた。 ・事業紹介の広報を館内掲示や、近隣自治会等への回覧、中央老人クラブ連合会の研修会や蘇我コミュニティ祭りに出向き行った。 ・いきいきセンターに通うことが困難な高齢者に対し、出張体操や相談を行い、地域の高齢者の介護予防を支援した。 ・健康相談や生活相談を通じ、地域で暮らす高齢者の不安や悩みに対し、心に寄り添った相談援助を行った。 ・高齢者のニーズに沿ったテーマの講演会や、近隣住民と交流できる事業を実施した。 ・自主事業のいきいき体操を実施することで、機能回復訓練に参加できなかった方にも体操で身体を動かす機会を提供した。また、いきいき百歳体操やかみかみ百歳体操を開催した。 ・中央区健康課に定期的にフォローアップによる体操で転びにくい身体づくりを目指した。
<p>花見川いきいきセンター</p>	<p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・花見川団地自治会の事務局ニュースにセンターのイベント等に関するポスターの回覧を依頼し広報に努めた。 ・高齢者講演会は、当初予定より5回増加し計9回開催した。うち6回はボランティア講師を活用した。 ・地域交流として映画鑑賞会、七夕、クリスマスコンサート等を行い地域に根差した施設づくりを行った。 ・あんしんケアセンターと連携した健康フェスティバル及びふれあい喫茶、楽々体操教室を実施し地域に定着している。 ・自主事業としては、健康セミナーの開催のほか脳年齢測定会2回と血管年齢測定会2回を行い創意工夫した事業に取り組んだ。 ・看護師による声掛けを積極的に行ったために健康相談の件数は増加した。
<p>さつきが丘いきいきセンター</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣自治会へのチラシ配布及び回覧板での広報など利用促進に努めた。その結果、生きがい活動支援通所事業の新規利用者獲得に繋がった。 ・地域ケア会議に出席し、事業広報及び地域の情報交換や関係機関との連携を図った。 ・高齢者講演会を当初予定より9回増加し、13回実施した。うち8回はボランティア講師を活用した。 ・昨年大変好評だった歌声集を年4回の定期開催とし3回実施した。 ・脳年齢測定週間を1回実施し、他区からの参加も多く盛況だった。 ・世代間交流を当初予定より1回増加し好評を得た。

あやめ台いきいきセンター	B	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会は介護予防や健康増進、暮らしに役立つ内容で実施計画を上回る回数を実施し、地域住民が参加できる機会を多く設けた。 ・あやめ台小学校敷地内の立地を活かし、こどもルームとの交流会を多数開催した。また、あやめ台小学校の授業の一環として、新たにポッチャ交流や地域学習会を開催し、多世代相互理解の機会の創出に注力した。 ・健康麻雀やポッチャ練習、自主体操など、個人利用者が主体的に他者と関わり活動する利用者主体事業を多く開催し、地域包括ケアシステムにおける「自助」と「互助」の意識を深めていただく機会とした。 ・介護予防の機会が少ない区内地域において、あんしんケアセンター、自治会と協働して体操教室を立ち上げ、出張体操および測定会を実施した。また、他の地域において新たに2か所出張体操を実施した。 ・あやめ台地区ふれあいサロンに出張し、あんしんケアセンターと協働でポッチャや脳トレ体験会を実施し、ふれあいサロンの運営を支援した。 ・地域連携として、あんしんケアセンター、ドラッグストアなど近隣の団体や民間事業所と協働で介護予防をテーマにしたスポーツ体験会や講演会を開催した。 ・広報では、生きがい活動の案内を新聞折り込みで実施した。また、広報誌は配布先に毎月直接届け、事業や内容の説明、レイアウトやニーズの聞き取りを実施し、以後の広報に活かした。
大宮いきいきセンター	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ感染拡大防止のため、利用者数は、3月については事業の休止、縮小となり利用者は前年度比7.3%となったが、4～2月まで前年度比100%の実績で、3月が通常通り事業展開できれば、前年度実績を上回る見込みだった。(通年では93.3%) ・高齢者講演会、世代間交流については、事業計画を上回る回数を実施した。 ・大宮小学校内に立地している特性を生かして、小学校との交流事業を10回、放課後の学童との交流を5回実施した。 ・小学校の評議委員として、職員が会議や学校行事に出席した。 ・新たに地域の公民館利用者を対象とした骨密度測定会、健康相談会を開催し、健康維持に関する啓蒙並びに当センターのPR活動を行った。 ・初めての取り組みとして、地域の保育所と調整、連携し、高齢者と年少・年長児との交流保育の機会を3回開催した。 ・地域の病院と連携して、介護予防に関する講演会を5回開催した。 ・高齢者の地域生活を包括的に支援する社会資源としての一翼を担うべく、関係機関(保健福祉センター、あんしんケアセンター5か所、地区社会福祉協議会、民生・児童委員、生活支援コーディネーター、老人クラブ連合会、地区の病院の地域連携室)との定例会議に出席し、必要時は個別に連絡を取り協力体制をとった。 ・自主事業として、いきいき体操、出張体操、訪問健康相談会を開催した。 ・看護実習生の受け入れ、高齢者の健康保持や地域生活支援に関する学習機会を提供した。
都賀いきいきセンター	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ感染拡大防止のため、利用者数は、3月については事業の休止、縮小となり前年度比15.59%となったが、4～2月までは前年度比114.7%、通年でも106.3%前年度を上回る事業展開ができた。 ・高齢者講演会は事業計画を上回る回数を実施した。 ・同好会利用の有効活用促進として、5週目等による空き室状況を掲示したり、同好会の一覧表を見やすいコーナーに掲示したりすることにより、新規利用の発掘につなげた。 ・都賀コミュニティセンター内に施設があることを活かして、コミュニティセンターまつりにあわせて、地域交流となるイベントを開催し、地域住民への施設紹介の機会を設けた。 ・ボランティア講師等を活用した講演会を実施し、ボランティア活動の場を提供した。 ・高齢者の地域生活を包括的に支援する社会資源としての一翼を担うべく、関係機関(保健福祉センター、あんしんケアセンター5か所、地区社会福祉協議会、民生・児童委員、生活支援コーディネーター、老人クラブ連合会、地区の病院の地域連携室)との定例会議に出席し、必要時は個別に連絡を取り協力体制をとった。 ・自主事業として、いきいき体操、出張体操、訪問健康相談会を開催した。 ・看護実習生の受け入れ、高齢者の健康保持や地域生活支援に関する学習機会を提供した。

<p>越智いきいきセンター</p>	<p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回地域ケア会議(見守りネットワーク)に参加し、あんしんケアセンターや民生委員、地区社会福祉協議会、緑区健康課等と情報交換・情報共有を行い、関係機関との連携と協力体制の強化に努めた。 ・地域包括支援センター、緑区健康課と協働し商業施設での健康測定会、健康フェア等を開催し関係機関との連携強化及び地域福祉の推進、施設の広報に努めた。 ・介護予防に関わる講演会は年4回を予定し実施した。10月以降に3講演会を予定していたが、台風による被害、新型コロナウイルス感染予防が原因で未実施となったことから、次年度開催予定としたい。 ・越智いきいき体操の他、独自の脳トレ教室をセンター及びおゆみ野ふれあい館で実施し、身体を動かすきっかけ作りの場を提供し介護予防に努めた。 ・地域包括支援センターと協働して緑区内地域サロン等を訪問(年5回)し、介護予防体操、健康測定会、健康相談等を行い地域福祉の推進と施設広報に努めた。 ・月1回地域サロンを訪問し、介護予防体操や健康相談を実施し、地域に密着した支援に努めた。 ・越智公民館と協働して世代間交流(ポッチャ大会)、利用者交流支援(落語会)等のイベントを開催し地域における幅広い交流支援を行った。今後も地域に根差した施設作りに取り組んでいく。
<p>土気いきいきセンター</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回地域ケア会議(見守りネットワーク)に参加し、あんしんケアセンターや民生委員、地区社会福祉協議会、緑区健康課等と情報交換・情報共有を行い、関係機関との連携と協力体制の強化に努めた。 ・地域包括支援センター、緑区健康課と協働し商業施設での健康測定会、健康フェア等を開催し関係機関との連携強化及び地域福祉の推進、施設の広報に努めた。 ・地域包括支援センターと協働して緑区内地域サロン等を訪問(年16回)し、出張体操、健康測定会、健康相談等を行い地域福祉の推進と施設の広報に努めた。 ・公民館や市民センター、郵便局等に依頼し、毎月発行するセンターだよりの掲示、配布を依頼する等、地域住民への当センターの広報を行った。 ・高齢者福祉講座終了後に同好会の案内を行うことで新規の同好会の設立と既存同好会の会員数増に繋げ、同好会の活動支援に努めた。 ・事業計画以上の講演会・世代間交流・地域交流会等の事業を開催し、施設利用の促進と広報に努めた。 ・あんしんケアセンターや社協地区事務所、南警察安全課、地域包括ケア推進課等と協働開催した地域自治会の「認知症SOS訓練」に参加し地域福祉の推進に努めた。 ・統一地方選挙での期日前選挙、当日投票の会場として集会室の貸し出しを行った。
<p>真砂いきいきセンター</p>	<p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者数は大きく減少した。 ・利用の増加を目指し、宣伝活動を実施した。 ・アンケートの結果では、利用の目的が、「健康づくり」「教養知識の習得」「趣味・レクリエーション」の3つが主立っており、より一層センターで何かを学びたい・身に着けたいという方が増えてきていることがわかる。 ・令和元年度は講演会等の企画事業の回数を増やし、また幅広い分野の講演会を企画した結果、多くの参加があり、アンケートでも好評をいただいた。今後も利用者に喜ばれる企画で利用の増加に繋げていきたい。また、地域との連携を図り、出張体操や出張の測定会を実施していきたい。 ・その他、千葉市立特別支援学校と焼き菓子の販売を通して交流する等、地域連携を図るなど、地域との交流を活発に行っていきたい。 ・近隣の自治会、民生委員、あんしんケアセンター、美浜区健康課等関係機関と連携し、地域の高齢者が情報を得やすく、社会参加しやすい地域、安心して暮らせる地域となるように努めていきたい。 ・様々な企画を実施し、当センターを利用していただくと同時に、当センターに通うことのできない方々に対しても、地域に出向き体操や測定会などを中心に、介護予防に積極的に関わっていきたい。

(2) 市による評価
ア 全体

総括 評価	B	所見	<p>市の求める水準に即した管理運営が行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設利用者数は、市の定める数値目標をほぼ達成した。 利用者アンケートによる満足度は市の定める数値目標を上回った。 管理運営の履行状況は、各種事業を市の定める実施回数以上実施するなど、市の定める水準を上回る管理運営が行われた。 施設管理経費縮減では、経費を節減した。 台風15号、19号により被災した住民のため浴室を夜間まで開放し、職員は深夜まで保守業務に従事した。
----------	---	----	---

	利用者数	満足度	管理運営の履行状況							管理 経費 縮減	総合	A又はB の割合	D又はE の割合	
			1 市民 の平等利 用の確保 ・施設の	2 施設 管理能力 (1)	2 施設 管理能力 (2)	3 施設 の効用の 発揮(1)	3 施設 の効用の 発揮(2)	3 施設 の効用の 発揮(3)	4 その他					
市による評価	C	A	C	C	C	C	C	C	B	C	B	B	30%	0%
中央いきいきプラザ	C	A	C	C	C	C	C	C	B	C	B	B	30%	0%
花見川いきいきプラザ	C	A	C	C	C	C	C	C	B	C	B	B	30%	0%
稲毛いきいきプラザ	C	A	C	C	C	C	C	C	B	C	B	B	30%	0%
若葉いきいきプラザ	C	A	C	C	C	C	C	C	B	C	B	B	30%	0%
緑いきいきプラザ	B	A	C	C	C	C	C	C	B	C	B	B	40%	0%
美浜いきいきプラザ	C	A	C	C	C	C	C	C	B	C	B	B	30%	0%
蘇我いきいきセンター	B	A	C	C	C	C	C	C	B	C	B	B	40%	0%
花見川いきいきセンター	D	A	C	C	C	C	C	C	B	C	B	C	30%	10%
さつきが丘いきいきセンター	C	A	C	C	C	C	C	C	B	C	B	B	30%	0%
あやめ台いきいきセンター	A	A	C	C	C	C	C	C	B	C	B	B	40%	0%
大宮いきいきセンター	D	A	C	C	C	C	C	C	B	C	B	C	30%	10%
都賀いきいきセンター	D	A	C	C	C	C	C	C	B	C	B	C	30%	10%
越智いきいきセンター	C	A	C	C	C	C	C	C	B	C	B	B	30%	0%
土気いきいきセンター	A	A	C	C	C	C	C	C	B	C	B	B	40%	0%
真砂いきいきセンター	D	A	C	C	C	C	C	C	B	C	B	C	30%	10%

施設名	総括評価	所見
中央いきいきプラザ	B	<ul style="list-style-type: none"> 電力供給事業者を入札により決定し、経費節減に努めている。 300以上の自治会へ広報誌を配布するなど利用促進に努めている。 来館者に積極的に声をかけることで、相談を行いやすい関係を構築しており、生活相談の件数が多い。 高齢者講演会を管理運営の基準を大幅に上回る回数を実施している。 人数が少ない同好会のために体験会を開催し、会員獲得の支援をしている。 世代間交流について、同好会と協力し生け花体験や茶道体験など創意工夫し基準を大幅に上回る回数実施している。 近隣施設との連携として、地域ケア会議に参加し教育機関や自治会等と情報交換をしている。また、あんしんケアセンター、地域住民、中学生と連携し認知症徘徊声掛け模擬訓練を実施している。自主事業を創意工夫し実施している。 防火・防災管理者選任（解任）届の提出が遺漏していた。
花見川いきいきプラザ	B	<ul style="list-style-type: none"> 新聞の折り込み広告により高齢者福祉講座等の案内を配布し利用促進に努めている。 高齢者講演会を管理運営の基準を大幅に上回る回数を実施している。 地域交流・世代間交流を創意工夫し実施している。 自主事業として実施した健康フェスティバルにおいて、近隣のあんしんケアセンターに生活機能チェックを依頼するなど創意工夫している。 近隣施設との連携として、施設内であんしんケアセンターの出張相談を実施した。
稲毛いきいきプラザ	B	<ul style="list-style-type: none"> 電力供給事業者を入札により決定し、経費節減に努めている。 広報誌を近隣の公民館、自治会、コミュニティセンターへ配布、自主事業のチラシを新聞折り込みするなど利用促進に努めている。 高齢者講演会を管理運営の基準を大幅に上回る回数を実施している。 同好会の立ち上げマニュアルを作成し、高齢者福祉講座で配布している。 世代間交流では、地域の保育所と連携して実施している。 地域交流として実施した「粋いき夏祭り」は規模が大きく好評であった。 近隣施設との連携として、自治会、あんしんケアセンター、地区社会福祉協議会等と連携し徘徊模擬声掛け訓練を実施している。自主事業として、各種事業を創意工夫し実施している。 浴室使用料について、減免対象外の者を誤って減免した。

若葉いきいきプラザ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・電力供給事業者を入札により決定し、経費節減に努めている。 ・子どもルーム、北谷津温水プール、コミュニティセンター、公民館へ広報誌を配布し利用促進に努めている。 ・看護師による声掛けを積極的に行っており、健康相談の件数が多い。 ・高齢者講演会を管理運営の基準を上回る回数を実施している。 ・世代間交流では淑徳大学の吹奏楽部との合同コンサートを開催するなど創意工夫し各種交流会を開催している。 ・近隣施設との連携として、桜木公民館で脳年齢測定会を実施した。自主事業として、毎日のラジオ体操など創意工夫し実施している。 ・施設使用料について納付の遅れがあった。
緑いきいきプラザ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・電力供給事業者を入札により決定し、経費節減に努めている。 ・あんしんケアセンターネットワーク会議で広報を行う、近隣商業施設や小学校、自治会へ広報を行うなど、広報に努め、来館者数は目標値を上回った。 ・高齢者講演会を管理運営の基準を大幅に上回る回数を実施している。 ・創意工夫し各種世代間交流を開催している。 ・地域交流として、いきいきプラザフェスティバルを実施している。 ・近隣機関のあんしんケアセンター土気と連携し、出張健康測定会を開催した。
美浜いきいきプラザ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・電力供給事業者を入札により決定し、経費節減に努めている。 ・既存のパンフレットに加え、新規利用者向けのパンフレットを作成し、近隣商業施設、区役所、マンション等へ配布し利用促進に努めている。 ・高齢者講演会を管理運営の基準を大幅に上回る回数を実施している。 ・会員を募集している同好会一覧を作成し、近隣施設へ配布している。 ・世代間交流を管理運営の基準を上回る回数実施している。 ・近隣施設との連携として、地域ケア会議で地区社会福祉協議会、美浜区健康課などと情報交換をしている。 ・自主事業として、近隣商業施設にて、血管年齢測定会を開催している。その他、URと協働で出張体操教室を行うなど、創意工夫している。
蘇我いきいきセンター	B	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会への広報誌の回覧数の増、近隣商業施設へ広報誌の設置するなど広報に努め、来館者数は目標値を上回った。 ・高齢者講演会を管理運営の基準を大幅に上回る回数を実施している。 ・本年度より同好会の体験会を実施した。 ・地域交流として実施しているいきいきセンターフェスティバルは、イベント内容を工夫するなどし、参加者が多く盛況である。世代間交流では、同一建物内の子育てリラックス館と共同で多数実施している。 ・近隣施設との連携として、蘇我コミュニティまつりへの参加や、地域ケア会議での教育機関や自治会等と情報交換、あんしんケアセンターや地域住民、中学生と連携した地域見守り訓練がある。 ・各種自主事業を創意工夫し積極的に実施している。
花見川いきいきセンター	C	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣施設と連携し広報を行っており、花見川団地自治会の事務局ニュース、区民祭りでの広報がある。また、新聞の折り込み広告により高齢者福祉講座等の案内を配布し利用促進に努めている。 ・高齢者講演会を管理運営の基準を大幅に上回る回数を実施している。 ・地域交流として実施しているいきいきセンターフェスティバルの参加者が多く盛況である。その他の地域交流として、映画鑑賞会、クリスマスコンサートなど、創意工夫し各種交流会を開催している。 ・各種世代間交流を開催しており、あんしんケアセンターと連携したふれあい喫茶は地域に定着している。 ・自主事業として、近隣自治会での看護師による健康セミナーや出張体操など、創意工夫し各種事業を実施している。 ・施設利用者数は目標を6, 569人下回った。
さつきが丘いきいきセンター	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞の折り込み広告や近隣施設で広報を実施。また、本年度より近隣自治会の回覧板で広報をするなど利用促進に努めている。 ・高齢者講演会を管理運営の基準を大幅に上回る回数を実施している。 ・近隣施設等との連携として、地区社会福祉協議会と連携し福祉まつりを開催している。 ・自主事業として実施しているさつきが丘いきいき体操、いきいき100歳体操などの定員を増加し、利用者増に努めている。また、社会福祉協議会と連携し健康体操を実施している。

あやめ台いきいきセンター	B	<ul style="list-style-type: none"> 施設に関する広報誌を近隣の自治会、コミュニティセンター、コミュニティカフェに配布、生きがい活動支援通所事業に関する広報誌を作成し近隣世帯へポストイング、新聞折込チラシで広報するなど、多様な方法で利用促進に努め、利用者数は目標値を大きく上回った。 高齢者講演会を管理運営の基準を上回る回数を実施している。 個人利用者や高齢者福祉講座受講者に働きかけ、2つの新規同好会の設立を補助した。 世代間交流では、子どもルームや小学校と頻繁に交流。小学校では地域福祉を学ぶ授業で取り上げられるなどした。 自主事業では空き部屋を活用した自主麻雀や、健康フェスティバルの日数を増やすなど創意工夫している。また、近隣の団体と連携し、学ぶ・い〜ねの会園生として、健康に関する講座を実施したり、あんしんケアセンターと協働で出張体操や測定会を複数回実施している。
大宮いきいきセンター	C	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者講演会を管理運営の基準を大幅に上回る回数を実施している。 世代間交流では、センターが大宮小学校内に立地していることを活かし、小学校の学校施設開放に参加。月に1度、集会室を開放し小学生と輪投げなどで交流している。 健康フェスティバルなど、創意工夫し各種自主事業を実施している。 施設利用者数は目標を3, 277人下回った。
都賀いきいきセンター	C	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者講演会を管理運営の基準を上回る回数を実施している。 世代間交流としてバステルアートなど創意工夫し実施している。 近隣施設との連携として、あんしんケアセンター桜木の出張健康相談を受け入れ、同好会の体操の支援、コミュニティセンターや社会福祉協議会の会議室を利用した生きがい活動の全体交流会などを行っている。 施設利用者数は目標を8, 287人下回った。
越智いきいきセンター	B	<ul style="list-style-type: none"> 公民館、民生委員地区部会、近隣自治会、越智小学校、地域ボランティア団体に広報の協力依頼を行うなど利用促進に努め、利用者数は目標値を上回った。 高齢者講演会を管理運営の基準を上回る回数を実施している。 地域交流として、公民館と協働で冬の落語会を開催した。 各種世代間交流を創意工夫し実施している。 近隣施設であるあんしんケアセンターへ講演会のボランティア講師の依頼を行った。また、逆にあんしんケアセンターへ出張体操の職員を派遣したり、密に連携している。さらに、見守りネットワーク土気会議に参加し、民生委員会、協議会、あんしんケアセンター等と情報交換や広報の協力依頼をしている。 各種自主事業を創意工夫し積極的に実施している。
土気いきいきセンター	B	<ul style="list-style-type: none"> 土気あすみが丘プラザ、公民館、市民センター、郵便局、近隣商業施設へ掲示物の依頼をするなど利用促進に努め、利用者数は目標値を大きく上回った。 高齢者講演会を管理運営の基準を大幅に上回る回数を実施している。 世代間交流では、近隣の土気小学校と交流するなど創意工夫し実施している。 近隣施設との連携として、あんしんケアセンター、緑区健康課、社会福祉協議会と協働の健康フェアを開催している。 各種自主事業として行っている出張健康体操は、多数の自治会から新規依頼が来るなど、地域に浸透している。
真砂いきいきセンター	C	<ul style="list-style-type: none"> 既存のパンフレットに加え、新規利用者向けのパンフレットを作成し、近隣商業施設、美浜区高齢障害支援課等へ配布し利用促進に努めている。 高齢者講演会を管理運営の基準を上回る回数を実施している。 近隣施設との連携として、地区社会福祉協議会、美浜区健康課などと地域ケア会議を開催し情報交換をしている。 自主事業として実施している出張体操は、自治会の敬老会に参加するなど地域に浸透している。 施設利用者数は目標を4, 739人下回った。

【評価の内容】

- A：市が指定管理者に求める水準等を大きく上回る、特に優れた管理運営が行われていた。
 B：市が指定管理者に求める水準等を上回る、優れた管理運営が行われていた。
 C：概ね市が指定管理者に求める水準等に則した、良好な管理運営が行われていた。
 D：管理運営の一部において市が指定管理者に求める水準等に達しておらず、改善の余地のある管理運営が行われていた。
 E：管理運営全般において市が指定管理者に求める水準等に達しておらず、速やかな改善が求められる管理運営が行われていた。

(3) 保健福祉局指定管理者選定評価委員会の意見

- ・財務状況については、法人全体では前年に引き続いて良好。また、令和2年4月1日付け社会福祉法人千葉市社会福祉協議会との吸収合併を受け、今後は合併のメリットを最大限生かしていただきたい。
 - ・管理運営については、概ね適切に管理が行われていると認められるが、次の事項に留意されたい。
- ① 全体的に利用者の高齢化が進んでいるので、引き続き利用者の安全確保に努めていただきたい。
 - ② 60代や70代前半の方など、引き続き新規利用者の獲得に努めていただきたい。
 - ③ 各施設のホームページについて、他の市公共施設のホームページと比較し明らかに見劣りする。今後はSNSの活用等も含め、スマートフォンによる閲覧を意識したホームページの作成について、引き続き、検討いただきたい。